

公益社団法人日本カヌー連盟

カヌースプリントオリンピックホープス日本代表

カヌースプリントジュニア日本代表

選考指針

平成 30 年度

第 1 強化部

カヌースプリントジュニア強化委員会

目次

1. はじめに	3
1-1. 日本カヌー連盟カヌースプリントジュニア強化委員会として	3
1-2. 選考指針の重要性（長期的なアスリート育成の観点から）	3
1-3. 選考指針の有効期間について	3
1-4. 用語の定義（参考資料：JSC, 2017; Malina et al., 2015）	4
2. 選考指針	5
2-1. カヌースプリントジュニア日本代表カテゴリーの選考目的	5
2-2. 派遣予定の国際大会	5
2-3. 選考対象	5
2-4. 選考過程	6
2-5. 平成 30 年度カヌースプリントジュニア日本代表選考会と選考基準	6
2-6. 強化指定と助成対象	7
2-7. カヌースプリントオリンピックホープス日本代表カテゴリーの選考目的	8
2-8. 派遣予定の国際大会	8
2-9. 選考対象	8
2-10. 選考過程	9
2-11. 平成 30 年度カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会と選考基準	9
2-12. 強化指定と助成対象	10
3. スタッフ、アスリートの入れ替えについて	10
【参考資料】	11

1. はじめに

1-1. 日本カヌー連盟カヌースプリントジュニア強化委員会として

カヌースプリントのハイパフォーマンススポーツ（卓越性を追求するスポーツ）における世界最高峰の舞台はオリンピックや世界選手権などの国際競技大会である。これらの国際競技大会における、我が国のメダル獲得または入賞などの特筆すべき実績は、2010年世界選手権 WK-1 500m 3位 北本忍、2012年ロンドン大会 C1-200m 8位 坂本直也などが挙げられるが、それ以降、継続的なアスリートの輩出にはいたっていない。これは、我が国のカヌースプリントのアスリート育成パスウェイに、大きな課題があったと言える。

2012年から2016年までの国際競技大会におけるメダリストの競技歴（競技開始年齢、オリンピック競技大会への出場年齢など）を調査すると、10歳前後で競技を開始し、約20歳で国際大会に出場し、約27歳でメダルを獲得しており、非常に長期間の育成を必要としている。また、カヌースプリントは短ければ40秒程度、長ければ3分程度の運動時間で、非常に大きな出力とそれを可能にする体力、技術、忍耐力などが要求される。これらの能力を総称してコンディションと呼ぶが、世界基準のコンディションを有し、卓越した競技パフォーマンスを発揮できるアスリートを育成するには、ジュニア期からの長期的な取り組みが重要となり、日ごろこの年代を指導されているコーチの皆様の協力が不可欠である。

日本カヌー連盟カヌースプリントジュニア強化委員会としては、東京2020年に向けた気運を活用し、シニアだけでなく、ジュニアの取り組みに注力し、10年後、20年後に我が国初のオリンピックメダリスト輩出をミッションとしている。

コーチ、関係者の皆様と協働して強固なアスリート育成パスウェイを構築していく。

1-2. 選考指針の重要性（長期的なアスリート育成の観点から）

アスリート育成パスウェイとは「将来性の豊かなスポーツタレント、アスリートが、競技パフォーマンスの各段階に応じたプログラムを通じて発掘・育成・強化され、メダリストになるまでの道筋（JSC, 2017）」であり、連盟内、コーチ間で共通の考え方のもと、各々が自律してアスリートの日々の活動を支援することで、アスリート育成パスウェイが構築される。中でも、アスリートの選考指針は、コーチ、アスリートの一つの目標となり、日々の競技活動に大きく影響を与えるものである。そのため、カヌースプリントジュニア強化委員会として長期間かけて議論を行い、世界的な動向、これまでの日本の取り組みや現状を分析した上で、シニア期で競技パフォーマンスを最大化させることを考慮し、選考指針を作成した。

1-3. 選考指針の有効期間について

平成30年度選考指針は、2018年4月1日～2019年3月31日まで有効とする。また、深刻な修正点が明らかになった場合、速やかに訂正を行う。PDCAサイクルに基づき、ジュニア強化委員会で検証後、改善点については、翌年の選考指針に反映させる。

1-4. 用語の定義（参考資料：JSC, 2017; Malina et al., 2015）

用語	内容
カヌースプリントオリンピックホープス日本代表/ ジュニア日本代表 選考指針	カヌースプリントジュニア強化委員会が策定する、カヌースプリントオリンピックホープス日本代表、ジュニア日本代表の選考方針が記載されている。全てのコーチ、スタッフが内容を確認し、日々の競技活動に取り組むこと。
選考基準	日本代表候補を選抜するための判断基準。
競技パフォーマンス	実際にコンディションが発揮された顕在的な現象。
コンディション (競技準備状態)	心身の潜在的な準備状態。戦術的、技術的、身体的、生理的、心理的、医学的要素を含む。
強化カテゴリー	カヌースプリントオリンピックホープス日本代表、ジュニア日本代表に対応する強化指定のカテゴリーを総称したもの。ジュニア A 代表 (U18)、ジュニア B 代表 (U18)、ジュニア C 代表 (U17、U16、U15) に分類される。
アスリート育成パスウェイ	将来性の豊かなスポーツタレント、アスリートが、競技パフォーマンスの各段階に応じたプログラムを通じて発掘・育成・強化され、メダリストになるまでの道筋。
タレント発掘・育成	国際競技大会で将来活躍する潜在力を有するスポーツタレントを発掘（種目適性、種目選抜、種目最適[転向]）し、見出されたスポーツタレントに質の高い育成プログラムを提供する全ての過程。
育成	スポーツタレント又はアスリートが、自身の才能を開花させる最適な学習の機会と環境を提供すること。
強化	一定のコンディション、競技パフォーマンスまで育成されアスリートを対象に、世界選手権やオリンピック競技大会で勝つことを目標とした強化プログラムや環境を提供すること。
生物学的成熟度	出生前から始まり、出生後から成人までの過程のこと。成熟度には大きく、性成熟、骨成熟、身体成熟の3つの観点があり、同じ歴年齢でも個人差が非常に大きく、競技パフォーマンスにも影響を与える。

2. 選考指針

2-1. カヌースプリントジュニア日本代表カテゴリーの選考目的

カヌースプリントジュニア A 代表 U18、ジュニア B 代表 U18 は、将来、日本代表となり世界選手権やオリンピックなど国際大会でメダル獲得のポテンシャルを有するアスリートを選抜することが目的である。このカテゴリーのアスリートは、国内大会はもちろん、世界ジュニア選手権を見据えた競技活動が求められる。また、世界ジュニア選手権は、カヌースプリントのアスリート育成パスウェイにおいて、重要な目標大会である。なぜなら、世界選手権やオリンピックなどで活躍するアスリートは、世界ジュニア選手権で上位の成績を収めていた者もいるからである。したがって、カヌースプリントジュニア強化委員会としては、世界ジュニア選手権でのメダル獲得を大きな目標として設定し、メダル獲得の可能性の高いアスリートをジュニア A 代表 U18 として選抜する。

ところで、18 歳以下のアスリートは、生物学的成熟度の差、カヌー歴（育成年数）、日常の競技活動に差が大きく、高いポテンシャルを有しているアスリートも多く存在すると考えている。世界ジュニア選手権などの国際大会を通じて、アスリートへの動機付け、高い目標設定、強豪国のアスリートの競技パフォーマンスや競技活動からの学びは、アスリートのポテンシャルを最大化させる上で、非常に重要な経験である。そのため、カヌースプリントジュニア強化委員会としては、高いポテンシャルを有しているアスリートをジュニア B 代表 U18 として選抜する。

カヌースプリントジュニア日本代表の選考指針を策定したことで、代表選考をより明確でシンプルにするだけでなく、年間を通して各種目の強化を図る事が出来る。また、アスリートの個人単位、クルー単位での登録を行うため、県単位やブロック単位での連携が促進される事が期待される。

2-2. 派遣予定の国際大会

世界ジュニア選手権（2018 年 7 月下旬頃～8 月上旬）

世界ジュニア選手権の下記種目に対して、選考基準に基づき派遣する。

男子カヤック：K-1000m K-2 1000m K-4 500m K-1 200m

女子カヤック：WK-1 500m WK-2 500m WK-4 500m WK-1 200m

男子カナディアン：C-1 1000m C-2 1000m

女子カナディアン：WC-2 500m WC-1 200m

2-3. 選考対象

カヌースプリントジュニア日本代表選考会に参加したアスリートで 2000 年 1 月 1 日から 2003 年 12 月 31 日までに生まれたアスリートをジュニア日本代表の選考対象とする。また、カヌースプリントジュニア日本代表選考会に参加するには、規定競技会等で参加標準タイムを突破するなどの条件があるため、2-4. 選考過程を参照すること。

2-4. 選考過程

- ① アスリートは、規定競技会※1において参加標準タイム※2を突破する。または、アスリートは、所属先コーチ等の監督の下、公認コースにおけるタイムトライアルにて参加標準タイムを突破し、都道府県カヌー協会からカヌースプリントジュニア日本代表選考会への参加推薦を受ける。カヌースプリントジュニア日本代表選考会への参加権は、1人乗り種目は個人単位、2人乗り以上の種目はクルー単位で獲得する。
- ② 参加資格を有するアスリートは、①の種目と記録を申込み時に申告する。平成30年度カヌースプリントジュニア日本代表選考会（2018年5月頃）に参加し、選考基準※3を突破する。
- ③ 選考基準を突破したアスリートを、カヌースプリントジュニア強化委員会から選考委員会にカヌースプリントジュニア日本代表として推薦し、承認を得る。
- ④ 選考委員会から承認が得られたアスリートは、カヌースプリントジュニア日本代表の内定を受け、ナショナルコーチ（ジュニア担当）等からの育成/強化プログラム提供や国際大会への派遣を通じて、自身のポテンシャルを最大限に引出せるよう、競技活動に取り組む。

※1 「文部科学大臣杯平成29年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会」、「日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会」、「第28回府中湖カヌーレガッタ」

※2 参加標準タイムは現在作成中なため、作成でき次第発表する。

※3 「2-5. 平成30年度カヌースプリントジュニア日本代表選考会と選考基準」を参照

2-5. 平成30年度カヌースプリントジュニア日本代表選考会と選考基準

①平成30年度カヌースプリントジュニア日本代表選考会

日時：2018年5月10日～5月13日（予定）

場所：調整中

スケジュール：現在作成中

本選考会の詳細については、確定次第、開催要項を別途展開する。

②ジュニア日本代表選考基準

各種目1位になったアスリート・クルー

留意点

- ・ 選考会にて優勝した種目を出場種目とする。

- ・ アスリート・クルーなどで辞退者が出た場合は、繰り上げをせずに、その種目は派遣を行わない。
- ・ 同着1位となった場合、国内育成プログラムにて選考レースを実施し、勝った方を選抜する。

2-6. 強化指定と助成対象

① カヌースプリントジュニア A 代表 U18

カヌースプリントジュニア日本代表選考会において、1位のアスリート・クルーを対象に、助成基準タイム※4を突破した場合、ジュニア A 代表 U18 として指定し、日本オリンピック委員会（JOC）強化指定に推薦する。

留意点

- ・ 期間は2019年3月31日までとする。
- ・ 原則、カヌースプリントジュニア A 代表 U18 のアスリート・クルーは全て助成対象とするが、JOC 強化指定には人数制限がある為、より良いタイムを出した者から選抜する場合もある。

※4 助成基準タイムは現在作成中なため、作成でき次第発表する。

② カヌースプリントジュニア B 代表 U18

カヌースプリントジュニア日本代表選考会において1位を獲得したが、助成基準タイムを突破できなかった場合、カヌースプリントジュニア B 代表 U18 として指定する。

留意点

- ・ 期間は2019年3月31日までとする。

③強化カテゴリーごとに助成対象となる活動を表1に示す。○は助成対象の活動。

表1 強化カテゴリーごとの助成対象

強化カテゴリー	国内育成プログラム	世界ジュニア選手権
ジュニア A 代表 U18	○	○
ジュニア B 代表 U18	○	×

2-7. カヌースプリントオリンピックホープス日本代表カテゴリーの選考目的

カヌースプリントオリンピックホープス日本代表は、強化カテゴリーではカヌースプリントジュニアC代表U17、U16、U15にあたる。この年代は、ポテンシャルを有している年代であるが、成熟度やカヌー歴の差がコンディションや競技パフォーマンスに大きく影響するため、将来の予測が難しい年代でもある。そのため、カヌースプリントジュニア強化委員会としては、オリンピックホープスは、アスリートにとってハイパフォーマンススポーツへの動機付けを行う、登竜門的な位置づけとして扱っていく。

そのため、オリンピックホープスに向けてアスリートを完成させるのではなく、その先を見据えた育成を行っていく。シニア期において、アスリートのポテンシャルを最大化することを目的に、カヌースプリントジュニア強化委員会としては、基本技術（大きなフレームで漕ぎ、大きくカヌーを進ませる）と基本体力（全身持久力、最大筋力、筋肉量）の獲得が最重要課題だと考えている。オリンピックホープスは、アスリート育成パスウェイにおける一つの機会であるため、アスリートのコンディションを見極め、過度なトレーニングやオーバーコーチング（教えすぎ）は避け、基本を徹底する。

上記事項を考慮し、カヌースプリントオリンピックホープス日本代表は、原則500m以上の距離にアスリートを派遣し、育成プログラムにおいても長距離種目のトレーニングを積極的に取り入れていく。

2-8. 派遣予定の国際大会

オリンピックホープス（2018年9月頃）

オリンピックホープスの下記種目に対して、選考基準に基づき派遣する。

男子カヤック：K-1 1000m 500m

女子カヤック：WK-1 1000m 500m

男子カナディアン：C-1 1000m 500m

女子カナディアン：WC-1 1000m 500m

2-9. 選考対象

カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会に参加したアスリートで以下に該当する者

U17：2001年1月1日から2001年12月31日までに生まれた選手

U16：2002年1月1日から2002年12月31日までに生まれた選手

U15：2003年1月1日以降に生まれた選手※5

※5 但し、来年の開催国に確認し、2003年12月31日までに生まれた選手となった場合はそれに準ずる。

2-10. 選考過程

- ① アスリートは、規定競技会※6において参加標準タイム※7を突破する。または、アスリートは、所属先コーチ等の監督の下、公認コースにおけるタイムトライアルにて参加標準タイムを突破し、都道府県カヌー協会からカヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会への参加推薦を受ける。
- ② 参加資格を有するアスリートは、①の種目と記録を申込み時に申告する。平成30年度カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会（2018年5月頃）に参加し、選考基準※8を突破する。
- ③ 選考基準を突破したアスリートを、カヌースプリントジュニア強化委員会から選考委員会にカヌースプリントオリンピックホープス日本代表として推薦し、承認を得る。
- ④ 選考委員会から承認が得られたアスリートは、カヌースプリントオリンピックホープス日本代表の内定を受け、ナショナルコーチ（ジュニア担当）等からの育成プログラム提供や国際大会への派遣を通じて、自身のポテンシャルの最大限に引出せるよう、競技活動に取り組む。

※6 「文部科学大臣杯平成29年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会」、「日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会」、「第28回府中湖カヌーレガッタ」

※7 参加標準タイムは現在作成中なため、作成でき次第発表する。

※8 「2-11. 平成30年度カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会と選考基準」を参照

2-11. 平成30年度カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会と選考基準

- ①平成30年度カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会

日時：2018年5月10日～5月13日（予定）

場所：調整中

スケジュール：現在作成中

本選考会の詳細については、確定次第、開催要項を別途展開する。

- ②カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考基準

各種目1位になったアスリート

留意点

- ・ 選考会にて優勝した種目を出場種目とする。
- ・ 辞退者が出た場合は、繰り上げをせずに、その種目は派遣を行わない。
- ・ 500m競技で優勝した選手がオリンピックホープスで200m競技に出場を希望する場合は、200m競技への出場を検討する。
- ・ 冬季の強化合宿や日韓交流に参加するアスリートは、オリンピックホープスに参加したアスリートの中から大会結果を考慮して選抜する。
- ・ 同着1位となった場合、国内育成プログラムにて選考レースを実施し、勝った方を選抜する。

2-1 2. 強化指定と助成対象

①カヌースプリントジュニアC代表 U17 U16 U15

カヌースプリントオリンピックホープス日本代表選考会において、1位のアスリートは、カヌースプリントジュニアC代表 U17 U16 U15 として指定する。

留意点

- ・ 期間は2019年3月31日までとする。

②強化カテゴリーごとに助成対象となる活動を表2に示す。○は助成対象の活動。

表2 強化カテゴリーごとの助成対象

強化カテゴリー	国内育成プログラム	オリンピックホープス	日韓交流
ジュニアC代表 U17U16U15	○	×	○

3. スタッフ、アスリートの入れ替えについて

カヌースプリントジュニア日本代表、オリンピックホープス日本代表は、世界基準の競技活動が要求される。これは、アスリートだけでなく、それを支援するコーチ、スタッフにも高いレベルの取組みが求められる。したがって、チームに対して著しく悪影響を及ぼす行為、ガバナンスに関わる行為が見られ、改善する余地が見込めない場合は、入替えも検討する。

【参考資料】

1. 独立行政法人日本スポーツ振興センター「アスリートパスウェイの戦略的支援」事業
(2017) タレント発掘マネジャーによるタレント発掘・育成プログラム計画立案のためのガイドブック Vol.1.1
2. Malina, R. M., Rogol, A. D., Cumming, S. P., e Silva, M. J. C., & Figueiredo, A. J. (2015). Biological maturation of youth athletes: assessment and implications. *Br J Sports Med*, 49(13), 852-859.